

ひまわりからの メッセージ

33号

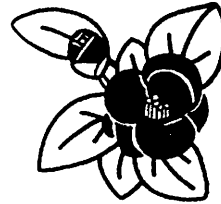
2013.12.10

西濃園域
発達障がい支援センター
ひまわり

発行人：中野にみ子

道

迷い道
回り道



私は、県内のいろいろな所に出かけますが、車にはナビをつけていません。認知症の予防だということもあります。が、地図を探し、この道はどこにつながっているのかと走るのも楽しいのです。もちろん、行く時には、最短距離を探し、できるだけ信号をさけて行くことを考えますが、帰途は別の道を通ってみたりするのです。時々、夜の道を冒険したために月の方から考えて自分の位置を確かめる羽目に……ということもあるのですが、それもまた面白いものです。道はどこかであつながつているので、いずれは目的地に着くのですが、自分の頭の地図がまちがっている、迷い道に入ってしまうこともあります。

自分が方向を失ってしまった時に心に浮かぶのは、子どもたちのことです。困った目、おびえた目、淋し気な目、反抗的な目、すねた目など、子どもたちが見せた心の一端を思い出すのです。困っていることを口に出せないでいる子どもれば、自分が何に困っているのかさえも分かっていない子どもいるでしょう。そう、道に迷ってしまったという今の私のように……。

道はいろいろな所に通じていて、たとえ回り道としても目的地に着くことはできるでしょうが私たちは、子どもたちに、どうしても最短の、できるだけ困らない道を用意しようとしているのではないのでしょうか？ でも結局は、子どもたちは、子どもたち自身の足で自分の人生を歩いていくしかないのですよね。そんなことを考えると、私たちは子どもたちにもっとたくさんの選択の道を用意してあげるべきではないのか……と思えるのです。

生きていくということは、様々な試練を乗り越えていくことでしょう。回り道だっていい。自分の足で歩いていけるように、見守っていく役目もまた、私たちに課せられていることなのでしょう。

勉強好きにするには

母の書棚から

見つけた本

母の本棚を整理していて、勉強好きにするには」という本を見つけました。私は勉強がういではありませんでしたが、勉強好きではありませんでした。このような本を母が買っていたということは、きっと私の成績を心配していたのだでしょう。もう五十年前も前のことです。

確かに私は勉強せず、テスト前だけ記憶して、後は忘れるという生徒で、高校時代の先生には「もっとがんばれば出来るのに」といつも叱られていたので、母はそんな私が心配で仕方がなかったのでしょう。いつの時代でも親ごころというのは子どものことを考え、案じているものなのでしょう。

皆さんもきっと同じですよ、ね？

その本を開いてみると、五十年前の本であるにもかかわらず、今に通じることが多々ありました。

勉強好きにする七原則

- ① 正しい勉強の仕方を身につけさせること
- ・ 知能の発達に即した指導をすること
- ・ 知能の分化を促すように指導すること
- ・ 基礎学力の上に次の学習を築き上げること
- ・ 多面的な考察の習慣をつけること
- ・ 学習を生活と直結させて考えること
- ・ できるだけ体験させること
- ・ 学習を計画的にさせること
- ・ 手際のいい勉強の仕方を指導すること
- ・ 予習を主体とした学習をさせること
- ・ 学科の特徴をつかんで学習させること
- ・ 毎日少しずつよいから練習させること
- ・ 学習の気分転換を上手にすること
- ② 勉強したくなる楽しい家庭の雰囲気を作る
- ・ 子どもは、嬉しい時はよく勉強することを心得ておくこと

- ・ 子どもにおそわる態度で指導する
 - ・ 一切、善意に解釈すること
 - ・ 気長に指導すること
 - ・ 「バカ」と言って叱らないこと
 - ・ 「勉強しろ」と言わないこと
 - ・ 机の上だけが勉強でないこと
 - ・ 遊びも生かして勉強に取り入れること
 - ・ 仕事をさせること
 - ・ 兄弟の扱いを正しくすること
 - ・ 楽しく話し合える家庭であること
 - ・ 夫婦の教育的意見が一致すること
- ③ 限りなく伸びる可能的素質を自覚させる
- ・ 認めること、ほめること
 - ・ 善を見、悪を見ないこと
 - ・ 成長していく自己を自覚させること
 - ・ 劣等感を取り除くこと
 - ・ 好きなこと、上手なことからスタートすること
- ④ 努力の仕甲斐を自覚させること
- ・ やればできることも体験させること

- ・ 辛抱強い子にすること
 - ・ どれだけしたかが目に見えるようにすること
- ⑤ 勉強だけにとらわれず子どもを全面的に見ること
- ・ 子どもに希望をもたせること
 - ・ 人生の目的、使命を感じさせること
 - ・ 親自身が計画性をもつこと
 - ・ 小づかいを正しく与えること
 - ・ 子どもに過ぎた責任や負担を負わせないこと
- ⑥ まず、病癖を治療すること
- ⑦ 尊敬され、感謝される親になること
- ・ 子どもを理解すること
 - ・ 子どもを信頼すること
 - ・ 子どもを尊重すること
 - ・ 子どもに感謝すること
 - ・ 子どもに素直であること



ざっと読まれて、いかがですか？、お母さんの立場としてなるほどと思われたことがたくさんあったのではないだろうか。

ところで、お子さんの得意とする学習スタイルを知っていますか？、実は、学び方、覚え方のスタイルは、大きく三つのスタイルに分けられます。

① 視覚型

目で見える視覚情報に強いタイプです。図や表、絵なども使うと理解が進みやすいのです。例えば、漢字の偏とつくりを色分けしたり、意味を絵で示してあげることでわかりやすくなります。

② 聴覚型

耳で聴いたり、自分で唱えたりしながら覚えるのが得意なタイプです。例えば、漢字の書き順を文字書き歌などにして唱えながら覚えたり、英語はリスニングテープで覚えるなど、聴覚優位のタイプです。

③ 運動型

字を書いたり、体を動かしたりと、実際に自分でやりながら覚えるのが得意なタイプです。例えば、漢字を何度も自分で書き取りをして、一つひとつの漢字を覚えていきます。

さて、子どもたちは、一体どのタイプでしょうか？、口頭だけでは理解しにくい子には視覚的な手がかりを与えてみる、見ただけではピンとこないようなら、実際にやらせてみるなど、子どもに合った方法をさぐっていくことが大切です。

ちなみに私は、じっと座っていると覚えられません。運動型なので、動き回って覚えることが多いと思います。

誰にでも得手、不得手があります。不得手なことばかりやらされると、次第にやる気もなくなっていくてしまいます。でも「できない」というレッテルを貼られてしまうこともいやなのです。子どもたちは皆、できるようになりたいと願っているのです。

授業に集中できない子

「指示が多いと混乱します。」

そろそろ二学期も終わります。

大垣では、スマイルブックをもっている子たちの継続訪問が終わって、次年度の引きつぎの日程が組まれる時期になってきました。「支援の引きつぎ」の大切さを感じる日々ですが、継続訪問をしていると、授業に集中できず、先生の指示や説明を聞きがしている子が意外に多いことに気づかれます。

そして、そこに、指示の出し方の共通点があるように思います。もちろん、授業についていけない理由は、他にもあると思いますが、……、指示が多すぎると、子どもたちが混乱してしまうように思います。

「教科書の例題を終わった人は、黒板を写して、プリントを……」など、たくさんの子を一度に出さないと、なぜ何をしたらいのか、分からなくなってしまうのです。「くして、からくして、次にくして……」を

理解するためには、指示されたことを記憶しておかなければなりません。しかも順番に……。残念ながら、それは子どもたちにとって難しいことです。特に、ことは消えてしまっていて、忘れても確かめる方法がありません。ですから、指示は「くします」のように、一つにしていたけると助かります。そして一斉指示でわかったかどうか確かめて、個別の対応が必要な場合もあると思います。

指示したことも黒板に箇条書きにしておいて下さる先生もありますが、生徒が自分で気づける、自分で確かめられるという点で、とてもありがたいことです。

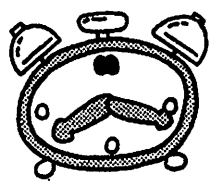
「指示はきちんと聞くものです。聞かない生徒が悪いでしょう」と思わずに、指示の工夫をしてもらえると思う子は、大勢いるはずですよ。

同様に、お母さん方も同じです。自分の子の特性をより理解しているお母さんならば、こその対応が望まれます。だらだらと、うるさく言っていないで、子どもたちは聞いてはいませんよ!!



冬休み中に

片づける力を!!



何度も口をすっぱくして言いつけている片づけの大切さ、再度のお願いです。

片づけは、「大きくなったらわかる」というものではありません。同じ物同士を合わせる、出した所に片づけるということは、子どもたちの将来の自立にかかわってくる大事なことです。

「片づけなさい」と口で言うだけでなく、「一緒に片づけて下さい。お母さんがやってしまっただけは何にもなりません。これはどこだった?」「これは?」と確かめながら一緒にやってみましょう。

時々、鼻をかんだティッシュを「ハイ」とお母さんに渡している子を見かけることがあります。こんな生活の二場面——が、子どもの自立へつながっていることを、しっかり理解してほしいと思うのです。

とても嬉しいことがありました。

先日、卒業生のTさんが手作りしたカレンダーが届きました。難病のTさんは、まばたきと、かすかに動く一本の指を使って、パソコンで（福祉機器を使って）作ったのでした。物の名と文字の学習を積み上げた十数年前のことを思い出し、とてもうれしかったので、ご報告します。

どの子にも、たくさんの可能性のあることを、私は信じているのです!!

◎お知らせ



今年も残り少なくなりました。皆さん、佳いお年をお迎え下さい。

一月の例会は、十四日（火）九時半からです。

休み中の過ごし方、家庭での工夫や困ったことなど、教えて下さい。次のステップに向けて!!